

北条町埋蔵文化財報告書 第二十六



文化財受護  
シンボルマーク

北条町埋蔵文化財報告書26



Hōjō

鳥取県東伯郡北条町

Hasita

土下古墳群発掘調査報告書第5集

土下240号墳

土下古墳群発掘調査報告書第五集

土下二四〇号墳

一九九八年

郷土資料

0.2

oj

6)

1998.1

北条町教育委員会

Hōjō  
鳥取県東伯郡北条町

Hasita  
土下古墳群発掘調査報告書第5集

土下240号墳

1998.1

北条町教育委員会

## 序 文

我が国は近年、文化財保護の意識が徐々に高まりつつあり、開発に伴う発掘調査を主として埋没していた歴史、文化が明らかになってきていることは非常に喜ばしいことであります。しかしその反面、開発と文化財保護との調整がたいへん重要となっており、本町としましても日々努力しているところであります。

北条町は、鳥取県中部を流れる天神川の下流部西岸に位置する総面積20.92km<sup>2</sup>の小さな町ですが、「北条町遺跡分布図」によりますと、丘陵部を中心に約620基にのぼる遺跡が存在し、その分布密度は県下一と言われています。このことから、当地が原始、古代から文化の栄えた地域であることを裏づけております。

ここに報告する土下240号墳は、北条町教育委員会が平成9年度に実施した北条無線基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査であります。

この調査地内からは土下240号墳の墳丘及び周溝をはじめとして、土壌や焼土が検出されました。また、遺物としては少数ではありますが土師器細片や須恵器細片が出土したことによって、土下山一帯で営まれた古代文化の一端を推察することができました。

調査にあたって、鳥取県教育委員会事務局文化課及び鳥取県埋蔵文化財センターのご指導はもとより、地元作業員、その他調査関係者各位には多大なるご尽力をいただき深く感謝申し上げます。

なお、これを契機としまして地域の生活文化水準の向上に資するため、文化財の保護に一層力を注いでいく所存でありますので、今後とも各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

1998(平成10)年1月

北条町教育委員会  
教育長 吉田俊夫

## 例 言

- 1 本報告書は、平成9年度実施の北条無線基地局建設工事に伴い、中国セルラー電話株式会社からの委託を受けて、北条町土下西張坪844-66に存在した土下240号墳を北条町教育委員会が調査主体となって実施した埋蔵文化財発掘調査記録である。
- 2 調査体制は、以下のとおりである。
  - 調査団長 吉田俊夫（北条町教育委員会教育長）
  - 調査指導 山根雅美（鳥取県埋蔵文化財センター）
  - 調査員 松本達之、宇田川 宏、西村勝義、日置桑左エ門、前田明範  
（以上、北条町文化財保護委員）  
樋口和夫（北条町教育委員会教育課社会教育係係長兼社会教育主事）  
清水直樹（北条町教育委員会教育課社会教育係主事）
  - 事務担当 樋口和夫、清水直樹
  - 調査協力 宮前直美、坂本沙智
- 3 本書の執筆、編集は、樋口が行った。
- 4 遺構の実測、図面作成、写真撮影は調査に携わった全員の協力により清水、宮前が行い、浄書は、樋口、宮前、坂本が行った。
- 5 本書に使用した方位は、全て磁北を示す。
- 6 図面、写真、出土遺物等は、北条町教育委員会が保管している。

# 本文目次

## 序 文 例 言 目 次

第1章 位置と環境	1
第2章 調査に至る経過	3
第3章 調査の概要	4
第4章 まとめにかえて	7
報告書抄録	8

# 挿 図 目 次

挿図1 北条町内遺跡分布図	2
挿図2 土下240号墳調査区位置図	3
挿図3 土下240号墳調査区平面図	3
挿図4 土下240号墳平面図及び断面図	5～6
挿図5 土下240号墳土坑平面図及び断面図	5～6

# 図 版 目 次

- 図版 1 調査区遠景 (船渡)  
表土除去後調査区全景  
調査風景  
土下 240 号墳全景

- 図版 2 南側周溝断面  
北側周溝断面  
土下 240 号墳完掘全景

## 第1章 位置と環境

北条町は、鳥取県のほぼ中央部に位置し、北は日本海に面し、東には一級河川の天神川を隔てて羽合町、西は大栄町、南は蜘蛛ヶ家山、土下山を隔てて倉吉市に接しており、本町域には、東西約5.6km、南北約4.7kmで、総面積20.92km<sup>2</sup>の小きな町である。(挿図1)

本町の北側は、砂丘地帯で東西約12km、南北約1.5kmある北条砂丘が、羽合町から大栄町まで広がっている。その南は、水田地帯で天神川によって上流から運ばれた土砂が堆積した沖積平野が、高低差の少ない平坦な北条平野を形成している。さらにその南は、丘陵地帯で標高約171mの蜘蛛ヶ家山と標高約104mの土下山が、わずかに山林となっている。

以下、本町の遺跡分布状況を砂丘地帯、水田地帯、丘陵地帯の三つに分けて記述する。

砂丘地帯では、近世まで砂丘地帯南端を利用した伯耆街道が東西に通じる主要道路だったが、本町東側に隣接する羽合町ではその砂丘の下から有名な長瀬高浜遺跡が発見されており、江戸時代後期までは羽合町と砂地続きだった。その西側に位置する江北浜の北野神社付近からは、天神川河川改修工事の際、中世の遺物と思われる土師器、須恵器、土馬、鍔片などが発見されている。さらに西の国坂に行くと標高約94mの茶白山の頂上には戦国時代の要害跡があり、その周囲には弥生、古墳、奈良時代の遺跡や前方後円墳を含む古墳群が存在し、北麓には伯耆四宮である国坂神社が鎮座しており、古代から近世の交通の要衝だったことを窺わせる。さらに西へ行くと弓原浜から下神にかけて標高約26mの小高い砂山沿いには弥生、古墳時代の遺物散布が認められる。

水田地帯では、奈良、平安時代にまでさかのぼる条里遺構があると推定されているのみで、特に遺跡、遺物の散布はないが、丘陵地帯と水田地帯の接するところで半島、島、入り江と思われる地形の付近には縄文、弥生、古墳時代の遺物の散布が、確認されている。

丘陵地帯では、曲地区に標高約171mの蜘蛛ヶ家山、土下地区に標高約104mの土下山、国坂地区に標高約94mの茶白山が存在するが、本町では、この三つの山に遺跡が集中しており、古墳がそのほとんどで約620基もの遺跡を有している。その他の丘陵地帯で本町の歴史的事実を今に伝えているものでは、北尾字八幡山に中世荘園時代に建立されたと言われる北条八幡宮が鎮座しており、島字城の内には中世豪族屋敷跡(堤城跡)がある。

今回の調査を行った土下240号墳は、土下古墳群約280基のうちの一つであるが、土下山は、隣の倉吉市向山に三角点が設置されている大山(標高約197m)の丘陵の延長でありその北端に当たる丘陵である。

つまり、倉吉市側で弥生時代から古墳時代にかけての集落跡や古墳が多数発掘されているので、本丘陵地帯の遺跡に関しては、特に隣接する倉吉市下張坪遺跡等を参考にしながら土下古墳群を考えていく必要がある。



A. 土下240号墳	1. 曲古墳群	2. 土下古墳群
3. やすみ塚(土下213号墳)	4. 茶臼山古墳群	5. 北尾古墳群
6. 島古墳群	7. 島荊山遺跡	8. 北尾遺跡
9. 島遺跡	10. 曲226号墳	11. 船渡遺跡
12. 米里銅鐸出土地	13. 米里第一遺跡	14. 米里第2遺跡
15. 天神川河床遺跡	16. 宇ノ塚遺跡	17. 殿屋敷遺跡
18. 馬場遺跡	19. 用露鼻遺跡	20. 長畑遺跡
21. 茶臼山要害	22. 中浜遺跡	23. 下神1号墳
24. 曲宮ノ前遺跡	25. 曲第一(岡)遺跡	26. 土下129号墳
27. 土下210号墳		

挿図1 北条町内遺跡分布図

## 第2章 調査に至る経過

北条町南部の丘陵地帯に位置する土下山は、約280基もの古墳が密集し、現在では鳥取県の特産として全国的にも有名な二十世紀梨を中心とした果樹園が拓けている。

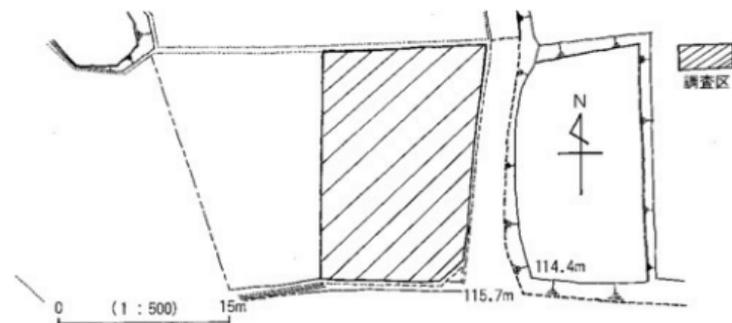
この土下山の尾根上に位置する北条町土下字西張坪844-66において、北条無線基地局建設工事を行いたい旨の協議が、中国セルラー電話株式会社より北条町教育委員会へあったので、両者、本工事予定地内における埋蔵文化財の取り扱いについて文化財保護の立場から開発工事との調整を図るべく協議を行い、平成8年8月から9月にかけて試掘調査を実施した。

その結果、「北条町内遺跡分布図」に記載された周知の遺跡である土下240号墳を確認したが、両者再協議の未止むを得ず、事前に発掘調査を行い記録保存することとした。

調査期間は、平成9年4月9日から平成10年3月25日までとした。



挿図2 土下240号墳調査区位置図



挿図3 土下240号墳調査区平面図

### 第3章 調査の概要

本調査は、土下古墳群約280基のうちの一つである土下240号墳の発掘調査であり、現場の調査は、平成9年4月9日から5月22日にかけて実施した。(挿図2)

本古墳の調査面積は、202㎡(20.2m×10m)で、場所は、北条町土下西張坪844-66の平坦な土下山(標高約115m)丘陵尾根上に位置し、野菜畑等で土地利用されている。

本古墳の周囲を見渡すと、北側には広大な日本海を望み、眼下には北条平野が拓け、その中にポツンと茶臼山古墳群が存在する茶臼山(標高約94m)がそびえ、西側には曲古墳群が存在する蜘蛛ヶ家山がそびえている。さらには、北東側には羽合町の馬の山古墳群、そして、東側には倉吉市の大平山古墳群や小田の向山古墳群、南側には四王寺山が遠望できる絶好の立地場所とも言える。

発掘調査前の現場の状況は、すでに開墾されており平坦な野菜畑であった。周辺には古墳と思われる高まりも見られ、所有者の話しによると本調査区にも人の肩の高さくらいの高まりや箱式石棺の石材も存在していたと言う事であるが、昭和30年ごろに開墾した際処分してしまったらしい。

調査は、古墳の墳丘が削平されているらしいので、とりえず畑地耕作土を除去するため、南北に縦長の調査区(20.2m×10m)の中央に約30cmの南北畔(A B断面)を土層観察用に設定した。(挿図3、4)

その畔に沿って調査区全体の平坦な畑地耕作土を約30～40cm掘り下げると墳丘(地山)と思われる層を確認したので、まずはその高さでの本古墳の主体部あるいはその他の遺構や平面プランを検出するよう努めたが、やはり墳丘盛土もなく、主体部もなかった。結局墳丘裾部(あるいは周溝肩部)より下が残存するのみで、平面プランを観察すると周溝と思われる黒い落ち込みが、調査区の北側と南側に認められた。

そこで、当初、設定した南北畔(A B断面)の土層を参考にしながら、各土層ごとに周溝を掘り下げていった。

その結果、周溝内から遺物としては、土師器細片数十個と須恵器細片二個を発見した。遺構としては、調査区北側から土坑1基と周溝内底部から焼土を検出したのみであった。

周溝は、断面がU字状で、調査区南側の方が幅4～5m、深さ約1.5mを測り、北側は幅3～4m、深さ約1.3mであった。

土坑は、北側周溝肩部(墳丘裾部)に位置し、長辺約1.8m、短辺約1.2m、深さは、周溝肩部で約0.8mで、遺物等検出されなかった。

墳形は、周溝の平面形から推察すると、一辺12m～13mの方墳と思われる。

時期は、推定になるが、古墳時代(5世紀ごろ)と思われる。

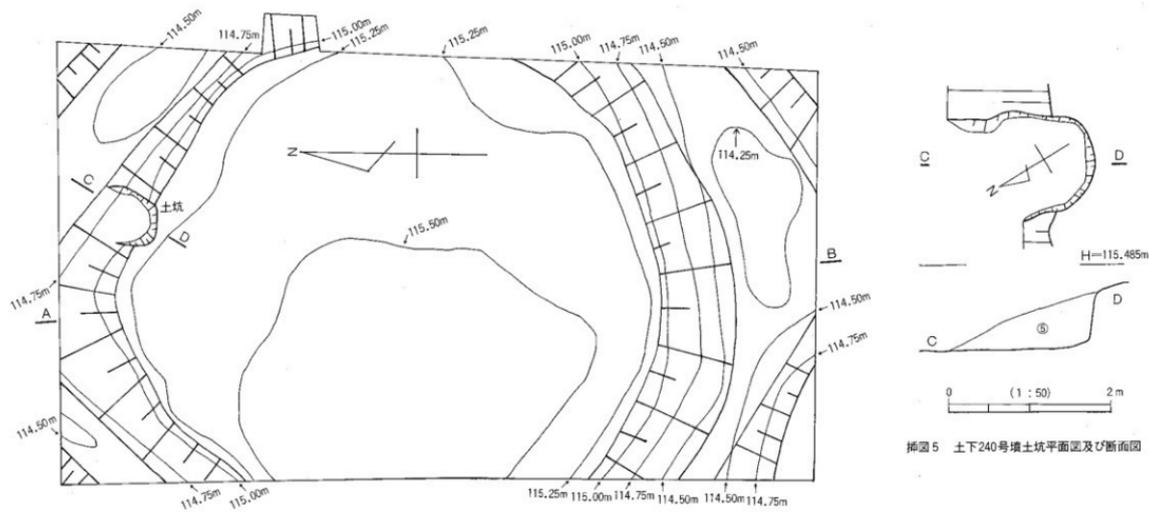
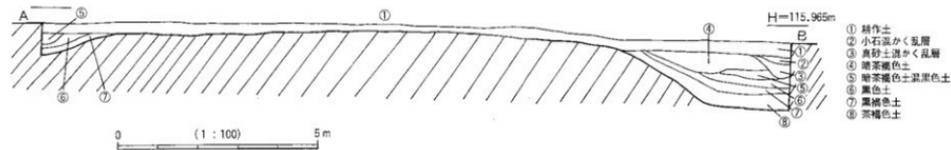


插图5 土下240号填土坑平面图及断面图



- ① 耕作土
- ② 小石混かく乱層
- ③ 黄砂土混かく乱層
- ④ 暗茶褐色土
- ⑤ 暗茶褐色土混黑色土
- ⑥ 黄褐色土
- ⑦ 黄褐色土
- ⑧ 茶褐色土

插图4 土下240号填土坑平面图及断面图

## 第4章 まとめにかえて

調査の概要で土下240号墳の報告を行ったとおり検出遺溝及び出土遺物は少なく、本古墳のまとめとしては、北条町及びその周辺の遺跡の特徴を紹介しながら本古墳のまとめにかえさせていただくこととした。

北条町の古墳は、分布地図(挿図1)でもわかるように町内すべての丘陵上に10mから20m前後の小さな古墳がいくつも連なっており、今回発掘調査した土下古墳群(約280基)曲古墳群(約240基)、北尾古墳群(約30基)、島古墳群(約10基)、茶臼山古墳群(約60基)など総数約620基の古墳が存在している。

その中で本町が発掘調査(試掘調査を除く)を行った件数は、昭和55年度から平成9年度までで19件(うち古墳が10件)の発掘を行い、延べ21基の古墳を今までに調査しており、本町の古墳の大きな特徴を埋葬施設で見ると、箱式石棺と横穴式石室に分けることができる。

古墳群ごとでは、土下古墳群を10基発掘調査しており、墳形は5基が円墳、4基が方墳、1基が不明で、すべての埋葬施設が箱式石棺(あるいは木棺)であった。曲古墳群では10基発掘調査しており、墳形はすべて円墳であった。そのうちの9基の埋葬施設が箱式石棺で、残り1基が横穴式石室であった。北尾古墳群では1基を発掘調査したが、墳形及び主体部の埋葬施設は不明で、周溝内埋葬施設の箱式石棺を確認しただけだった。

時期的には箱式石棺は、弥生時代後期末及び古墳時代前期から後期まで、横穴式石室は、古墳時代後期の古墳の埋葬施設に見られる。このことでは、当時の土木技術の発達か、あるいは、埋葬儀礼の変化または異文化集団の侵入等時代の変化がいろいろ考えられる。

埋葬施設の地域別の分布は、発掘調査及び踏査でわかっているものと見ると箱式石棺がほとんどで、横穴式石室は、北尾八幡山(北尾古墳群)と曲地区の蜘蛛ヶ家山山頂より東側の谷あいにも固まってみられるものと蜘蛛ヶ家山山頂より南側と土下山の倉吉市境に点在しているだけで発見されているものは少ない。

以上、本町古墳埋葬施設の大別を紹介してきたが、本古墳隣の倉吉市古川沢の下張坪遺跡が同じ丘陵尾根上に存在しており、その遺跡では67基にもものぼる非常に多くの円墳が連なっていて確認されている。また、これらの古墳の埋葬主体は、大部分が箱式石棺で、古墳の時期は、周溝内より出土した土師器や須恵器から5世紀後半から6世紀にかけての古墳群と考えられている。

これらのことや今回の調査結果から土下240号墳は、同一丘陵尾根上に存在しているが墳形が方墳であること、周溝がわりと深いこと、墳丘は削平されており埋葬主体はなくなっていたが、土地所有者の話では箱式石棺であったこと、出土遺物がほとんどないこと、古墳どうしが連なっていないこと等、下張坪遺跡とは若干性格が違うようだ。時期的には5世紀ごろと推定しているが、不明である。今後は、周辺古墳との比較が必要である。

# 報告書抄録

ふりがな		はした ごふんぐん ほっくつちようき ほうこくしよ						
書名		土下古墳群発掘調査報告書						
副書名		土下240号墳						
巻次		第5集						
シリーズ名		北条町埋蔵文化財報告書						
シリーズ番号		26						
編著者名		樋口 和夫						
編集機関		北条町教育委員会						
所在地		〒689-2111 鳥取県東伯郡北条町土下112 Ⅱ0858-36-3111						
発行年月日		西暦1998年1月30日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
はした 土下 240号墳	はつじようちようはした 北条町土下 字西張坪	31366		35° 27′ 30″	133° 49′ 17″	1997 04~ 1997 05	202.8	中国セルラー 電話株式会社 北条無線基地 局建設工事に 伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
土下 240号墳	古墳 (方墳)	古墳時代 5世紀と 推定	古墳の周溝	土師器片 須恵器片		主体部は、土地所 所有者の話では箱式 石棺だったらしい		

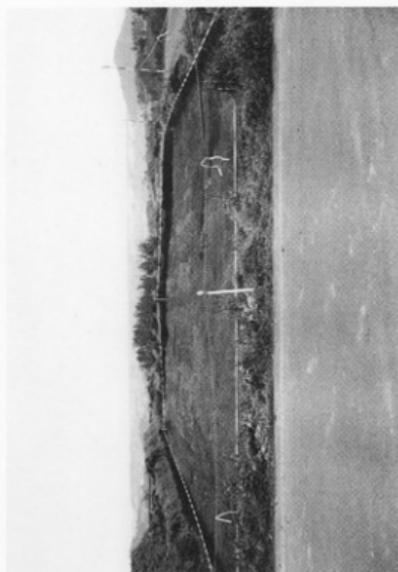
# 圖 版



調査区遠景船渡側（北西より）



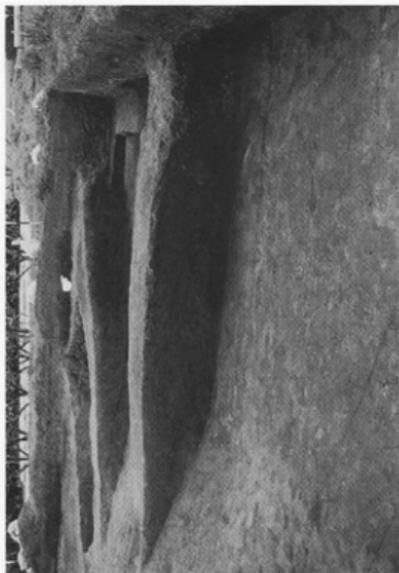
調査風景（東より）



表土除去後調査区全景（南より）



土下240号墳全景（南より）



南側周溝断面 (西より)



北側周溝断面 (西より)



土下 240 号墳完掘全景 (西より)

平成10年1月印刷

平成10年1月発行

北条町埋蔵文化財報告書26

**土下古墳群発掘調査報告書第5集**

編集 鳥取県東伯郡北条町土下112

発行 北条町教育委員会

印刷 有限会社矢積印刷

製本 鳥取県倉吉市宮川町2-36